

クリニックの周りには、四季の移ろいとともに野の花たちがひっそりと咲いています。可憐な花を観察しながら、その中で絵画的なものを選んでみました。少し立ち止まって、ひっそりと咲く花たちを眺めてみませんか。

ひがしの空から

～幸せな人生へのお手伝い～

CONTENTS

＊認知症の患者さん、
かかりつけ医が支えます
＊放射線検査室、充実してます！

検査結果、お待たせしません！
その恩切れ、「年のせい」？

～高齢者に潜んでいる心不全の早期発見・治療に向けて～

マイペット紹介

編集後記

表紙写真・文：飯尾 文昭



認知症の患者さん、かかりつけ医が支えます

医師 飯尾 文昭



「10年前に私の母がアルツハイマー型の認知症になりました。高名な専門医にも診てもらつたのですが、母の不安は強く、正直いって病状は良くなりませんでした。もう一つは、自分が長年診てきた糖尿病の患者さんが何人も認知症になつたこと。糖尿病がある人は、ない人の2～3倍認知症になつてしまふのです」

「認知症は、人が長生きするようになる中で普通に起きる病気の一つ。その意味で糖尿病と変わらない。医師として逃げるわけにはいかないと思いました。わらにもする気持ちで、様々な治療法を勉強し、圧倒的に多くの症例を診ている先生の提唱する治療法に出会つたのです。サプリメントも併用して、私の母が苦しんでいた不安は驚くほど軽減されました」

「何が違つたのでしょうか。

「通常の医療では、この症状にはこの分量の薬を処方するといったガイドラインがあります。しかし、認知症の場合には、患者さんによつて

のもとには、多くの認知症を持つ患者さんが訪れます。地域の「かかりつけ医」が継続的に治療に取り組むことは、専門医に診てもらうのとは違つたメリットがある——。今日はそんなお話を患者さんがいます。

三重東クリニックの飯尾文昭副院長

「認知症の治療に取り組むきっかけは何だったのですか。



ん」

「ガイドラインにしばられず、目の前の患者さんの様子を見ながら、お薬の種類や量を足したり引いたりする必要があるのです。それを実践するのは、かかりつけ医が向いています。症状が安定するまでは2週に1度くらいの頻度で診察するので微調整が可能ですね」

「いま何人ぐらい認知症の患者さんを診察していますか。

「1カ月に診る認知症の患者さんは50人くらいです。患者さん1人ひとりを教科書として学びながら、恐る恐る試行錯誤する。その連続でした」

「今も自信があるわけではありませんが、困つている問題の解決に向けて、

「だいたい、こんな感じでいけそうですが、困つて笑顔が増える。そんな経験も重ね、最近では口コミや地域包括支援センターから紹介された患者さんも増えてきました」

「地域で暮らす認知症の患者さんをどう支えていけますか。

「私の診ている認知症の患者さんの

中に、自宅でひとり暮らしされている方が4人います。医師は薬物療法を担当しますが、その薬を飲み忘れないようになりますが、定期的に通院したりするのに多くの人が関わります。家族、介護職、ケアマネジャー、薬剤師、看護師、医師らが情報をやりとりする必要があるのです。まさに、多職種が連携する地域包括ケアですね」

「当クリニックではインターネットを使って情報共有する仕組みを導入しています。豊後大野市が採用したメイカルケアステーションというツールを、スマホやタブレットで使います」

「どのように使うのですか。

「先日は、訪問した介護士が『足のむくみがあり、不安がついている』と写真を添えて送つてきました。画像があると医師は様子を確認し、指示を出します」

「はい。認知症のあるひとり暮らしの方がいます。京都在住の娘さんはコロナ禍で帰省できなくなつてしまつた。そこでご本人が診察にいらした際に笑顔の写真を撮つて送りました。1枚の写真是、どんなに言葉を尽くすよりも雄弁にご本人の状態を物語ります」

「認知症が

あつても患者さんに、かかりつけ医として関わり続けます。在宅独居の方を4人も支えている。

私はそこに誇りを感じています」



聞き手：浜田陽太郎

放射線検査室、充実してます！



断に効果を発揮しています。検査の放射線被曝ばくをコントロールするシステムも万全です。

■MRI検査は開放感ある装置で

狭いところが苦手でも不安を軽減

放射線ではなく、強い磁気と電波を利用して、様々な断面を撮像する検査です。MRIというと狭いトンネルに頭から入るイメージがありますよね。でも、当クリニックに入

診療放射線技師の桑原宏です。きょうは、私の頼れる相棒である3つの検査装置をご紹介します。当クリニックの設備は病院並み。皆様の健康維持と病気の早期発見に大きな力を発揮してくれています。

■CT検査で内臓脂肪や肺気腫の測定も

しているのは、「永久磁石オーブンMRIシステム」②と呼ばれる装置で、トンネルというより「壁と壁の間に入る」感覚です。開放感があり、「狭い所が苦手」という人でも不安が軽くなると思います。あらゆる角度での撮影ができる、造影剤を使わずに頭部の細かい血管や頸動脈を描き出せます。

①を使って内臓脂肪や肺気腫の測定も

「コンピューター断層診断装置」①を使つた検査です。X線を利用して人体の輪切り像（断層）を撮影します。当クリニックでは16列CT装置を導入しています。検査の時には、造影剤を点滴で血管内に入れ、体内を循環させることによって、より精密でくつきりとした画像になります。病気による異常が起きていないか、血管がどのように張り巡らされていいるか、などがくわしく分かるのです。また、CTで撮つた画像を解析する装置もあり、内臓脂肪や肺気腫の診



■骨密度検査で骨折のリスクを予測

年をとると骨が弱くなり、転ぶなどのはずみで骨折しやすくなります。

これが骨粗鬆症です。当クリニックでは骨粗鬆症の診断に「全身式骨密度装置」③を使用しており、「骨折リスクの高い」腰と大腿骨の2カ所の骨密度を測定します。骨密度が低くなつたことが分かれれば、骨折の危険性を予測できるのです。

いかがでしたでしょうか。いずれの装置も富士フイルム社製で信頼が置けます。また当クリニックでは、検査したデータをデータベースに蓄積しています。治療前後のデータを比較して効果を判定し、根拠にもとづいた医療ができるのが強みです。

患者さまの利便性はさらに向上しました。それまでも、主要な検査項目については受けた当日に結果の説明を受けられていました。でも新しい設備の導入で、より幅広い検査項目が、よりスピーディに結果を出せるようになつたのです。

検査を受けてからの待ち時間は大幅に短くなりました。ご本人はもちろん、付き添うご家族のご負担も軽くできるとうれしいです。

高齢化が進む日本では、糖尿病や高血圧などの病気と長くつきあわなければいけない患者さまが増えていきます。定期的に検査や診察を受け、身体の状況をコントロールすることが生活の質を向上させる秘訣です。検査結果を迅速に出すことで、みなさまの健康寿命を伸ばしたい。それが私たちの願いです。

検査結果、お待たせしません！

臨床検査技師 大畠 弘美



その息切れ、「年のせい」？ 高齢者に潜んでいる心不全の 早期発見・治療に向けて



医師 木崎 佑介

心臓はとても働き者です。1日10万回前後も休むことなく収縮を繰り返し、血液を全身に送り出しています。私達は気にも留めずに生活していますが、これはものすごい重労働です。ただ、年齢を重ねると、休みなく働き続けてきた心臓の機能は少しづつ衰えます。全身に必要な血液を送り出すことができなくなると、息切れや疲労感などの症状が現れます。これが心不全です。

高齢者は心不全の症状がはつきり現れないことも多く、心臓の衰えに気づきにくいのです。症状があつても「年のせいだからしょうがない」と思っていませんが、少なくありません。最悪の場合、入院が必要になつたり寿命が短くなつたりすることがあります。

心臓の異常を早期に発見するためには、レントゲン・血液検査・心電図・心臓超音波検査などがありますが、すべて当クリニックで行つて当日中に結果を知ることができます。また、高血圧・糖尿病・脂質異常症といった生活習慣病を悪化させないようにするために大切です。かかりつけ医と二人三脚でじっくりと治療することをおすすめします。

医学の進歩は目ざましく、心臓領域でも新たな心不全治療（薬物治療・機械的治療）が次々と登場しています。当クリニックでは、患者さんに適した高度医療の必要性を判断し、県内外の高次医療機関へ紹介も行っています。

今後もかかりつけ医として、心不全の早期発見と最善の治療を提供したいと考えています。

3匹の猫と暮らしています。長男の「トライ太郎くん」は6歳、次男の「ラミー」は2歳。みんな元保護猫です。みちゃんは2歳。みちゃんは、うちに来た順番なので、次男の方が年上（年齢は推定です）。



マイペスト

事務 菅亮一

3匹の猫と暮らしています。長男の「トライ太郎くん」は6歳、次男の「ラミー」は2歳。みんな元保護猫です。みちゃんは2歳。みちゃんは、うちに来た順番なので、次男の方が年上（年齢は推定です）。

一番年下で新参のなな（年齢は推定です）。

みちゃんが女王様気質というフクザツな関係で、3匹いつも一緒に生き抜いてきたのでしょうか。想像すると涙が止まらない。でも、過酷な環境を一生懸命に生き抜いてきたのでしよう。想像すると涙が止まらない想いです。でも、当の猫達はそのことを1ミリも覚えていないのかのごとく、

日々自分勝手で贅沢三昧な生活を満喫しています・・・。

このままでつと幸せでいてくれるのを望みつつ、お世話をさせてもらつていい毎日です。

編集後記

事務 甲斐 敏幸

豊後大野市で新型コロナウイルスのワクチン接種率が9月末で約8割に達する見通しという。県内ではトップクラスの早さだ。市役所や医師会の努力に心より感謝したい。さて、今号の編集は朝日新聞の浜田陽太郎編集委員が手伝ってくれた。浜田さんは、会社の制度を使って1年間休職し、東京から転居して、当クリニックが所属する関愛会で「研修」している。記者としては違う視点で、医療・介護の世界を内側から見てみたい、地域包括ケアの本当を吸収していくのでしよう。そのためには、現場の方が話す言葉の重みを理解する必要がある……。そう考えてのことだと言う。

私たち関愛会が目指すのは、医療や介護がより公平に機能し続ける社会だ。研修後、浜田さんにはメディアを通して私たちの仕事を伝えてほしい。私たちの国には、もてなしの文化がある。学びたいといふ人を、私たち地域の一人ひとりが温かく迎えられたら嬉しい。同じ思いの方は、どちらでも声をかけてほしい。



広報誌『ひがしの空から』

発行：社会医療法人 関愛会 三重東クリニック
〒879-7104 大分県豊後大野市三重町小坂4109-61
Tel. 0974-22-6333 Fax. 0974-22-6341

